

平成19年度実績報告

役場における環境への取り組み状況をお知らせします

地球温暖化やオゾン層の破壊、森林の減少等によって“環境”という問題が地球規模で注目され始め、これらの対策として、人類の将来をも視野に入れ、地球全体のことを考え行動することが求められるようになって久しく経ちます。

村では平成14年3月、「東海村環境基本条例」に定める良好な環境の保全・創造という基本理念の実現に向けて、地球環境の保全や循環型社会の構築などの環境施策を総合的・計画的に推進するための「東海村環境基本計画」を策定する一方、役場の全組織・全職員が率先して環境活動に取り組むための「とうかいエコオフィスプラン（東海村地球温暖化対策実行計画）」を策定し、地域としての持続可能性を高め、環境負荷の低減に努めてきました。

今月は、これら2つの計画の平成19年度実績がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

「東海村環境基本計画」に係る取り組み

「東海村環境基本計画」には、「東海村第4次総合計画」（“人・自然・文化が響き合うまち”という「東海村の将来像」の実現に向け、その方向性を体系化した“まちづくりの指針”）に定める政策・施策・事務事業を環境面から取り組む施策が設定されており、平成19年度は186件の村の取り組み（基本施策）が該当しました。そのうち、予定以上進んだものには、住民の皆さんの理解と積極的な協力があって実現した“ごみ有料化（指定ごみ袋等の導入）”“資源物分別回収の充実”のほか、軽油の代替燃料として注目される“BDF（バイオディーゼル燃料）の利用実現”などがあります。なお、東海村公式ホームページの「東海村の環境への取組について（平成19年度実績）」（<http://www.vill.tokai.ibaraki.jp/kankyou/>）には、186件すべての基本施策の進行状況を客観的に評価したものが掲載されていますので、併せてご覧ください。

「第2次とうかいエコオフィスプラン」の取り組みで1,300万円の経費を節減

下表は、平成19年度から平成23年度までの5年間を計画期間とする「第2次とうかいエコオフィスプラン」における“エコオフィス活動”9項目の取り組み状況です（表内の「△」はマイナスを表します）。“エコオフィス活動”とは、村の公共施設や事務事業に伴って排出される温室効果ガス（二酸化炭素）の排出抑制に配慮する行動のことで、平成19年度の二酸化炭素排出量は基準年（平成17年度）の8,382トンに比べ4.4%減の8,016トン、また、コスト的には基準年に比べ差し引き13,143.9万円の削減につなげることができました。なお、二酸化炭素排出量は、電気・ガソリン・軽油・灯油・A重油・LPG・可燃ごみの7項目の使用・排出量に既定の“排出係数”を乗じて算出したもので、村では平成23年度までに対基準年で5%の削減目標を立てています。※重点取り組み項目の詳細は、東海村公式ホームページに掲載があります。

重点取り組み項目	基準年 (平成17年度)	平成19年度実績	平成19年度 削減量(対基準年)	平成19年度 増減率(対基準年)	増減コスト(千円)
電気使用量 (メガワット時/年)	17,136.0	16,629.0	△ 507.0	3.0%減	△ 11,154.0
ガソリン使用量 (キロリットル/年)	64.8	62.7	△ 2.1	3.2%減	△ 266.7
軽油使用量 (キロリットル/年)	23.1	19.3	△ 3.8	16.5%減	△ 410.4
灯油使用量 (キロリットル/年)	148.8	110.4	△ 38.4	25.8%減	△ 2,803.2
A重油使用量 (キロリットル/年)	167.0	198.2	31.2	18.7%増	2,246.4
LPG(液化石油ガス)使用量 (立方キロメートル/年)	28.1	26.1	△ 2.0	7.1%減	△ 680.0
可燃ごみ排出量 (トン/年)	262.0	211.0	△ 51.0	19.5%減	—
水道水使用量 (立方キロメートル/年)	161.0	161.0	0.0	0.0%	0.0
コピー用紙購入量 (千枚/年)	6,642.0	6,547.0	△ 95.0	1.4%減	△ 76.0
二酸化炭素排出量 (トン/年)	8,382.0	8,016.0	△ 366.0	4.4%減	—

経済環境部環境政策課環境計画推進室 (☎ 282-1711・内線 1454 電子メール kankyou@vill.tokai.ibaraki.jp)